活動を増やしてポジティブに

「愛の家グループホーム相模原下九沢」（神奈川県）
(310)
森田菜奈未

工藤初子さん（仮名）は夫と死別後、1人暮らしをしていましたが買い物や調理など生活の中で、助けが必要な場面が増えていきました。自宅での生活が難しくなり当グループホームへ入居しました。

当事業所は2024年3月に新規開設したばかりで、工藤さんの入居時は、まだ利用者が数名しかいない状態でした。がらんとした事業所や、顔見知りでない職員らに不安を感じるのも当然で、表情が硬く、あまり会話をせず過ごしていました。職員が話しかけると、いつも最終的にはつらかった自分の幼少期の話を繰り返していました。

工藤さんは身体的に問題がなかったので、体を動かす機会を増やし、活気ある生活をしてほしいと職員は考え、掃除や洗濯など身の回りのことを一緒に行うように声掛けをしていきました。最初は「私はよく分からないことが多くて、何もできないの」と断ることが多かったです。しかし、朝の掃除や洗濯物干し、食事の盛り付けなどの役割を持ってもらい、毎日お願いすると「何かやってみようかしら」という発言が出るようになっていきました。

「愛の家グループホーム相模原下九沢」でおやつを楽しむ工藤初子さん

また、仲の良い利用者ができると、二人で取り組んでくれました。その利用者が落ち込んで「家に帰りたいわ」と言うと、工藤さんは「あなたがいないと寂しいから」と、とりなすこともあります。昔の悲しい話をすることはなくなり、ポジティブな言動が目立ち、笑顔は増えています。

生活の中で自分の役割を持ったり、気の合う人と関わる時間が増えたりして、事業所での生活に慣れ、より豊かな生活を送ることができます。一人では行えなかったことでも職員の支援で共に行うことで、活動量を増やすことにもつながります。

「愛の家グループホーム相模原下九沢」では、自分でできることを行いながら身体機能を維持していきます。自宅のようにホッとでき「わが家」と捉えてもらえるような事業所を目指します。